2019年（令和元年）7月1日
くげぬま探求クラブ

会報 くぐひ

第98号（夏号）

◇　くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる　◇

みんなで考えよう
「我が家の災害対応作戦」

長谷川 元保

昭和36年の伊勢湾台風を契機として制定された「災害対策基本法」は、国土と国民の生命、身体と財産を災害から保護して、社会の秩序の維持と公共の福祉を確保することを目的として、その後幾多の大災害時に見直しがなされました。

しかし、東日本大震災において、自助、共助および公助がうまくかみあわないと大規模災害への対策がうまく働かないことが強く認識され、その教訓を踏まえて、平成25年の「災害対策基本法」改正では、自助および共助に関する規定が追加されました。さらに平成26年には地域コミュニティの共助による計画的な防災対策を整備推進するために、国の「防災基本計画」、「神奈川県地域防災計画」および「藤沢市地域防災計画」に加えて市町村内の一定の地区の居住者及び事業者が行う自発的な防災活動として、鵠沼地区では鵠沼の住民による「鵠沼地区防災計画」を策定することが新たに制度化されました。

この制度は、自助・共助による防災活動を促進し、ボトムアップ型による地域の防災力を高めるために地域の特性を踏まえたコミュニティレベルの防災活動を内容とするもので、その特徴は

◎鵠沼の地域特性や社会特性などを考慮して鵠沼の住民が自ら計画を作成することができ、
◎その計画を「藤沢市地域防災計画」の一部として提案することができ、
◎計画の対象範囲、活動体制とともに、防災訓練、物資等の備蓄、鵠沼地区独自のハザードマップや避難計画の作成、避難所運営、居住者等の相互支援体制など、様々な防災活動を含めることができます。

「災害対策基本法」は、防災に関する理念と責務を明確化して、国、地方公共団体および公共機関の責務を明確にするとともに、「自らの災害への備え」「生活必需品の備蓄」「自発的な防災活動への参加」は私たちひとり一人の責務としています。

「藤沢市地域防災計画」では、大災害に備えて私たちひとり一人が「市民の役割」として「自らの身は、自ら守る」という自主防災の観点から、最低3日分（可能な限り7日分）の食料、飲料水、携帯トイレ、トイレットペーパー等を日ごろから自宅に備蓄することや、安全のための予防対策として家具の固定を行うこと、ブロック塀等の転倒防止対策を行うこと、自宅の耐震化を行うことを義務付けています。そして、災害時の家族の連絡体制を準備しておくことや、行動についてのルールづくりなどをしておくことを求めています。

また、「藤沢市地域防災計画」では、私たちひとり一人が「私たちのまちは、私たちで守る」ことが大切であるという認識を持って自主防災会活動へ積極的に参画することを義務付けています。

くぐひの新企画として「我が家の災害対応作戦」をシリーズで掲載します。皆さんの参考になることを願っています。

新世話人の抱負

二度目のお努めです

池田 修

創立 20 周年だった 6 年前からの 2 年間に続き、今回で二度目。役目は、クラブのみんながやろうとしていることの交通整理で、独自で何かを執行することは付託されていない。でも、クラブがどうあるべきかは、いつも自問しなければならない。世話人同士の情報共有も欠かせない。時には方向付けめいたことを考えることもあるかもしれない。

選挙で選ばれた（そうでなくても）ので、クラブにとって何かいいことが出来れば…と願う。クラブ員 50 人以上、十人十色、各自の行動半径や価値観はさまざま。さて前回の世話人時に学習したことをどう生かせるか――。

ともかく「難しく考えない」「やらされていると思わない」「愉しんでやる」の三点。これで行こう。

世話人になって

嶋村 堯敏

久しぶりに世話人になった。このことはついていたのか、ついていなかったのか。18 年もいるクラブから、この間多くのメリットを受けてきた。良い友人ができたし、地元との付き合いなども広くなった。街中を歩けば知った顔に必ず一人には会って挨拶をする。

自分の性格からすると、クラブに入っていなければこのようなことは起きなかっただろう。相変わらず会社人間の残滓を引きずっていたかもしれない。というわけで、「ついていた」というのは、恩返しをするチャンスが巡ってきたということ。「ついていなかった」というのは、自由気ままになる時間が減ってしまうこと、ボケた頭で皆さんからの厳しい指摘に対応できないで迷惑をかけること。任期が終わったとき「ついていたな」と思うようになりたい。

気負うことなく地域活動を楽しみましょう

水野 祐作

私個人としての抱負は特別なく、奥村代表の示された方針のクラブ全体で明るい雰囲気を保ちながら、気負うことなく地域活動を楽しみましょう、こうできたらなと思います。世話人は自分の日常の活動に加え、皆さんの活動が円滑に進められるようにお世話するという地域活動的ボランティアが一つ増えることかなと考えています。見識をお持ちの方の集団なので、差し出がましいことはせずにお世話に徹するという姿勢でいこうと思います。

クラブの皆さんは、人生の第二ステップの軸足を地域活動に置いた訳ですから、一緒に活動を楽しみながら仲間を増やし、さらに有意義で楽しいクラブにしていきましょう。

「社会人間」の意味を知る機会に

岡林 哲夫

くげぬま探求クラブが 25 年、つまり四半世紀の記念行事を終え、新しい四半世紀を迎えるときに世話人として活動できることを光栄に思っています。

四半世紀の時間を経過し、探求クラブはメンバー個人としても組織としても高齢化が進んでいます。そのため各種活動の内容が変化するのは必然だと考えています。変化の方向や内容を決めるのは会員の総意であり、世話人はその合意形成のための論点整理や潤滑が役割だと思っています。

いずれにしろ、入会して 2 年の私が世話人の活動を通じて、バックグラウンドが異なり個性のある約 50 名の活動や未だに理解できていない「社会人間」という言葉の意味を知る機会がありそうなことを楽しみにしています。

3 回目の世話人を夢見て！

田中 力

今般の規約改正が影響したのか！？　2 回目の世話人を仰せつかりました。

初選出時は当クラブに入会一年足らずで訳も分からず良き世話人仲間にも恵まれ「人を知り、各部会を知り」をモットーとしてあっという間の 2 年間でした。

「是非世話人をやるべし！」とお役目終了後の 2015 年春号の「くぐひ」に投稿した記憶があるが「2 年間を振り返って」の項の最後の下りに「30 周年行事で再度世話人としてお役に立てることを夢見て」と書いている。今回の選出は一寸早かったか！？

2 回目の今回はクラブ運営の潤滑油として、また若き？60 代として頭よりも体を張って皆様のお役に立てたらと思います。

私こういうものです　新入会員の自己紹介です。会員数は55名になりました

大木 信一さん

4 月に入会した大木信一（おおきしんいち)、昭和 24 年 9 月生まれの 69 歳です。6 年前から親睦･研鑽部門のヤングブラザーズ（男声合唱)にゲスト参加しておりましたが、地域活動にも参加したいと思い「くげぬま探求クラブ」に入会しました。皆さんよろしくお願いいたします。

私は昭和 35 年～43 年の 8 年間（小学校 5 年～高校 3 年）をこの鵠沼で過ごしましたが、大学進学を機にこの地を離れました。定年後、40 年以上の時を経て実家に戻ってきたところ、小・中学校の同級生が近所に多数住んでいることにビックリ！改めて鵠沼という地の素晴らしさに気づかされました。その同級生たちと結成したおやじバンド「湘洋オージンズ」では、ビートルズ・グループサウンズ・青春のポップスなどを楽しみつつ、コンサートや施設慰問などを行ってきましたが、2020 年 6 月には解散の予定です。

これからは、当クラブの活動を通して地域とのつながりを深めていければと思っていますので、皆さんのご指導をよろしくお願いいたします。

小柳 浩さん

1940 年 1 月生まれの 79 歳､生まれは東京、1944 年に岡山に疎開、小学校 5 年の時に東京に移住､1971 年に結婚と同時に当地に移住しました。

「くげぬま探求クラブ」との繋がりは（故）西元さんのパソコン修理からで、西村さん、伊藤さん、西野さん・・・と多くのクラブメンバーと知り合いました。パソコンで困ったこと、故障やトラブルなどについてサポートしますので気軽に声をかけてください。

西野さんからは「ヤングブラザーズ」に繋がり、「なつかしの名盤愛好会」と「デジタル情報部会」にもゲストで参加しておりました。

子供のころから音楽が好きで、高校では合唱を、大学ではハワイアンバンドで歌っていました。特にジャズが好きで 42 歳でヴァイブラフォンに挑戦、空白期間も数回ありましたが現在は藤沢本町にあるライブハウス「クラジャ」のハウスバンド、「高松」でのミニライブ（先に当地に移住していた高校の同級生のサックスと一緒に)、それから 40 代に知り合った飲み仲間と 20 数年ぶりに再会して 3 年前にスタートしたバンドと、月に約 3 回楽しんでいます。

西村 望さん

今年の 2 月に公民館で催された健康講座を受講、デジタル情報部会にゲストとして参加して大きな刺激を受け､更に刺激を求めて「くげぬま探求クラブ」への入会を決意、4 月例会でめでたく入会させて頂きました。実は､68 才の時に門を叩いたのですが、入会時 65 才以上はダメと門前払いになりました。その後も何回かチャンスがあつたのですが、月日の流れるのは早く、サークル活動や趣味で退屈することはありませんでした。

2015 年 12 月にペースメーカを入れるようになり体力的にも制限されるようになり、身辺整理や色々な活動を卒業してきました。

とは言え、肉体的にまた頭脳も活動をしていないとどんどん体力が落ちていきます。

そこで、寝たきり状態にならない為に、火、水、木、金と天気が良ければ、辻堂海浜公園と隣接する南部公園で午前中 2 時間ほどバードゴルフに励んでいます。

一方、ライフホビーはアマチュア無線で、高校生の時に免許（呼出符号：JA3CG）をとり、最近は、デジタル通信で遊んでいます。その他、公民館の夢倶楽部、鵠沼を語る会、なぎさ歴史散策､囲碁などと体調の良い時に楽しんでいます。

しかし、最近では体調が良いのは午前中の 2 時間くらいでバードゴルフもハーフで上がって来る日が増えました。

寝たきり状態にならない為に、極楽部会、デジタル情報部会、近代史を語る会などに参加させて下さい。よろしくお願いします。

私の夢の社会は、人間の性善説をとり正しい事をした人は功徳を受け、ズルや不正をした人は損をし、罰を受ける社会、ズルや悪の逃げ得が許されない社会になればと願っています。法律だけいくら厳しくしても理想の社会は難しい。

個人的には少しでも小さな善を積み上げて人生の終わりを迎えたい。

追記：京都市出身、鵠沼松が岡には昭和 53 年 4 月からです。

田嶋 達也さん（4 月入会)、畑中 英男さん（6 月入会)、井上 忍さん（6 月入会）の自己紹介は次号に掲載します。

ビフォア・アフター

新たな発見をする喜び

田中 章

私がくげぬま探求クラブ(以下「探求」）に入会したのは 60 歳で定年退職した直後であるから、この駄文は「社会人間」のビフォーアフターということにもなる（入会の経緯については「くぐひ」創立 25 周年記念特集号に記したので割愛)。

先ず大きな違いは、近所で顔見知りの方々に出会う回数だろう。「会社人間」としての 37 年間、早朝出勤、深夜の帰宅はまだ良い方で、仕事が深夜を過ぎた時は都内に宿泊することも多く、休日出勤も多々、海外出張は年に十数回以上という典型的な「会社人間生活」を送ってきた私にとって、近所の方々と交流する機会は皆無であった。しかし、探求に入会し、その他の地域活動にも参加する中で、鵠沼地域での知人は飛躍的に増えた。今では自宅を出て鵠沼海岸駅に向かう 10 分程の間に、日中であれば必ず知人の一人や二人にはお目に掛かる程である。クラブ員のみならず、地域の方々と知り合えたことで、漸く地域に溶け込めた実感がする今日この頃である。

次に言えることは、探求の諸部会に参加することにより、また「鵠沼公民館評議員会」、「鵠沼地区公民館まつり実行委員会」の一員となることにより、地域振興について学ぶことが出来たという点である。更には、藤沢市の委託により、市全体の公民館の在り方を検討する「公民館運営審議会」、「平和の輪をひろげる実行委員会」にも参加し、昨年は後者の活動の一環で市内の小中高生を引率して長崎の平和祈念式典に参加した。これらの社会活動は会社人間時代、仕事に忙殺され関わりたくとも時間が無い分野だった。

趣味の分野で言えば、それまで個人的に関心のある趣味だけに留まり、野に咲く花々の名も知らず、知ろうともしない人間であったのだが、クラブ員の皆さんの見識の高さに感銘を受け、自分が関わっていた領域以外にも目を向けることにより、新たな発見をする喜びを与えてくれたのがこのクラブだった。

今後も新しい発見を求めて地域活動に参加してゆきたいと考えている。

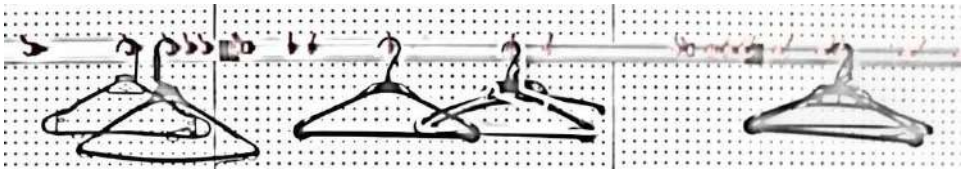
クラブ短信　（その１）

１．極楽部会で NHK スペシャル

このところ極楽部会では NHK スペシャルのテレビ番組を選び、オンデマンドで鑑賞する会が開催されている。4、5 月はシリーズ認知症革命の第 1 回「ついに分かった！予防への道」と第 2 回「最後まで、その人らしく」を放映した。参加者は共に 10 名程度であった。当クラブの会員の平均年齢は 70 台後半であり、これらのテーマはわれわれにとって身近で有意義な内容であったとの声が参加者から上がった。次回以降も同様の企画が予定されているので、放映の機会にぜひご覧になっては。

２．鵠沼公民館再生・修理後日談

ヤングブラザーズなど、いくつかの部会活動で公民館の学習室 1・2 を利用している。学習室は昨年の創立記念行事の一環として我々が公民館と協力して壁や天井がきれいに再生していた。しかしコートやバッグなどをかけるハンガーのフックがほとんど壊れており、不便を感じていた。そこで昨年のように公民館にフックの部品代を負担して頂き、探求クラブの会員が取り付け作業を担当してはどうかという案が野村さんから出て、公民館に打診した結果、予算はないという回答であった。その後、スライド式のフックのついたレールの在庫が 10 本ほど公民館にあるという連絡があり、確認の結果十分に使えるという結論になった。そこで萩原さんなど腕に覚えのある数人の会員に声をかけ、学習室 1・2 の壁にレールを取り付けた。公民館からはその後文化活動室にも取り付けてほしいという依頼があり、対応した。



地域活動部会紹介

災害研究部会

柳田 敏雄

今から8年前の出来事ですが、時間が経つのも忘れてテレビにくぎ付けになった 3.11 東日本大震災の被災映像が未だ鮮明に残る6年前にクラブに入会しました。

その後、世話人 2 年目の年でしたか、「当クラブに在籍される殆どが鵠沼在住であるのに、なんであの恐ろしい津波が来るかもしれないこの鵠沼の地で活動するこのクラブに、災害について調べて見ようとする部会が無いのか」、漠然とした疑問を感じていました。

戦後まもなくこの鵠沼に引っ越して来たわが家の亡き母からは、「関東大震災の時は小田急線の所まで津波が来たそうだよ」と聞いていましたが、3.11 の映像で見たような津波がこの鵠沼にも来るのか、その時に備え少しでも調べて見て得られたことを周囲の方と共有できないか、災害を研究する部会を立ち上げようとクラブの先輩諸氏に相談したところ、3 名以上の賛成を得られ発足したのが災害研究部会でした。

令和元年 5 月で発足以来 49 回を数える部会は、テレビ、新聞、Web 等で得られた最新情報を紹介し最新知識を共有すること、藤沢市発行の防災ナビ記載の項目について部会員が手分けして各自の関心のある項目について調べた結果を発表して理解を深めることを実施してきました。

その項目は、①避難施設、医療体制、②応急活動／復興対策／災害知識、③飲料水について、④海岸地域の避難ビルです。

活動結果は防災ナビ記載の各種施策が進んでいるが、十分とまで言えないこともあること、末端の町内会活動に委ねられていることが多々あること、発災時に大切なことは先ず自らが助かる自助が優先であり、次いで隣近所の安否確認や相互に助け合う共助、市全体での対応が中心となる公助には限りがあることを認識できました。

昨年のクラブ創立 25 周年記念行事では、夏休み体験教室で防災カルタ・防災 DVD コーナーを開催し子供たちに防災の知識を伝え、10 月の公民館まつりでは当クラブとしては初の展示コーナーを設け、災害時の実物によるトイレ対策と飲料水確保の方法を A3、35 枚を張り合わせて大型のパネルを制作・展示し、市長、教育長はじめ多くの方々に見て頂きました。この展示を見た片瀬町内会防災役員の方から、片瀬町内会イベントでの展示を依頼され、20 数名の町内会の方へ手ごたえのある展示を行うことが出来ました。

鵠沼に限らず、片瀬、辻堂にお住いの方は地震・津波等の災害への関心が高いことは間違いなく、今後も災害に関する知識を深め、クラブ内に留まらず地域の方々へも広めていきますので、関心のある方の参加をお待ちします。

親睦･研鑽部会紹介

当クラブには毎月開催されている部会が 21 あり、適宜くぐひに紹介されている。それ以外に毎年 2～3 回開催されている親睦・研鑽のスポーツイベントがあり、今回はそれらの紹介を行う。

ボウリング大会

佐々木 黎治

最近ボウリングがブームのようである。

あの桑田佳祐が発案の「桑田カップ大会」やアメリカで両手投げのプロボウラーがいて、それがアマチュアにも広まっているなど、話題に事欠かない。

わが探求クラブのボウリング大会は平成 26 年春から始まって、ほぼ年 3 回のペースで開催されている。だからこの 2 月に行われた大会は第 15 回ということであり、平成最後の大会ということになる。もともとボウリングはゴルフ、囲碁将棋とともに娯楽部会の一部門であったが、当時部会長であった大野伴雄さんが家庭の事情でクラブを退会し、部会長席が空席となった。そんなおり平成 29 年に加わったカラオケ同好会がカラオケ部会として独立したのをきっかけに、ボウリングとゴルフの両部門がクラブ主催の大会となったものである。

当クラブのボウリング大会の特徴は、参加者に対し優しい思いやりの精神に溢れていることであろう。「誰にでも優勝のチャンスを！！」との思いから、ハンデは「0 から 60 まで」と幅広い。これは前回までの実績から考慮されたものだが、新規参加者には一律 30 のハンデが与えられる。低ハンデの人が続けて上位になると、悲劇というか「栄光の 0 ハンデ」となる。ちなみに現在の 0 ハンデは大野伴雄さんと池田雅一さんでご両人ともゲストである。

このような条件の中で連続優勝もあった。第 9、10 回の米今さんと 14、15 回の萩原さんである。もう泥鰌はいないだろう・・・ということでクラブ新会員の皆さんぜひご参加ください。美酒があなたを待っています。

「探求ゴルフコンペと私のゴルフ」

田中力

今の HP に残っている記録では第 33 回は 20 周年記念コンペ（2013 年 5 月）とある。ところが大雨のため中止！！幹事の不徳の致すところである。3 名のご婦人方も含め総勢 15 名のメンバーが現地に集合したにもかかわらず！私が幹事の時だ！あれから 6 年が過ぎ同月、同日（5 月 20 日）に開催された今回（第 44 回）は予報に反して素晴らしい天気に恵まれた。幹事としての一番の関心事は天候だ。自慢じゃないが直近開催の大半、11 回中 7 回の幹事（優勝：6 回、BB：1 回）を務めさせてもらっている。20 年以上続いている歴史ある同コンペに関われることは大変名誉なことである。

ところでゴルフコースでの初打ちが親父に連れて行かれたのが確か 19 歳の頃、あれから 50 年が経過し現役の頃は帰宅途中に飯も食わずに練習場へ直行、また海外赴任中は週末はほとんどコースでプレー。今では想像もつかない。学生時代の仲間との 4 回/年の付き合いまた当クラブのメンバーとのプライベートなプレーとそして当該コンペを今後 10 年は続けていきたいと思っている！さらに欲を言えば元気なうちにオーガスタ・ナショナル・GC でプレーをすることを夢見つつ現実的には来年の東京五輪のゴルフ観戦のチケットが当たりますように！と祈念している。

クラブ短信　（その２）

３．ぐにゃ凧作りと凧揚げ会

鵠洋児童館恒例のぐにゃ凧作りと凧揚げ会が 5 月 12 日に開催された。小学 1～4 年生が 30 人ほど参加した。館長の挨拶に続き、探求クラブの長谷川さんが作り方を説明した。子供達はグループに分かれてクラブ員が一人ずつ付き指導した。子供達が準備してきた下絵を使いマーカーペンで思い思いの絵を描き、その後竹ひごとセロテープでぐにゃ凧を完成させ、全員の作品をロープにさげてみんなで鑑賞した。

お母さんたちが作った豚汁と持参のおにぎりで昼食をとったあと、全員徒歩で凧揚げ会場に向かった。昨年、一昨年は小学校の校庭や児童館近くの駐車場で凧揚げを行ったが今回はサーフビレッジ周辺の芝生上で行われた。天気は良く開放感があり、程よい浜風が吹いていた。凧を揚げ始めると歓声が上がり、子どもたちに加えお母さんたちも興奮気味。やはり、開催場所の選択は大切であると実感した。

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の奥村」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください

～例会・各部会活動報告～

３月　March

○臨時総会　2日出席者 41 名、欠席者8名(内委任状5名)、在籍者50名(1名休会中) 33名以上総会成立 議題:次期期世話人、監査役の選任 出席者全員の投票により、世話人:水野、嶋村、奥村（代表)、岡林、池田（修)、田中（力)、監査役:岸を選出
○例会　2日 審議事項 なし　○行事　なし
○世話人・委員会　①世話人会 26日　臨時3/4　②メディア委員会 13日　③くぐひ制作部 13日97号推敲完了　④ＨＰ制作部 休会　⑤探求25周年委員会「くぐひ特別号」配布
○鵠沼松が岡公園愛護会 10日5名 清掃
○藤が谷公園愛護会 10日10名(内ｹﾞｽﾄ1)名 清掃
○ヤングハーツ 6 日幹事会・練習 22(14)名 12 日鵠生園（ホーム）17(11)名 15 日藤沢病院ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞのため中止
○おもちゃの病院 10日/24日 12（1）/8（1）名　来院24/10名 新患7/7件 退院11/3件 当日完治2/2件
○子どもと遊ぶ会(鵠洋児童館) 16日 8(1)名 子ども5名 保護者1名
○鵠っ子囲碁･将棋ルーム 17 日 17(4)名 他3名　子ども:将棋36名 囲碁4名保護者45名 平成最後のトーナメント大会
○災害研究部会30日企業研究部会と合同開催
○極楽部会 20日12(1)名　Ｎｽﾍﾟ「人生100年時代」
○サロン会 16日 17名 大盛況
○健康部会 28日 10名+ｹﾞｽﾄ3広町緑地の大桜
○探訪部会19日 10名 円覚寺･明月院･浄光明寺コース
○カラオケ部会19日 6(1)名
○農園部会5日4 名、12日5名 ジャガイモ植付､小松菜等収穫
○談話室20 日 6,名　花見会についてあれこれ
○スケッチ部会 休会
○デジタル情報部25日17名(ｹﾞｽﾄ2名）動画編集等
○ヤングブラザーズ 3 日春のコンサート 22 名（8先生3）,8 日 22 名(9 先生2) 23名(9先生3)
○近代史を語る会 14 日 19 名 (8)「東京大空襲体験談」
○企業研究部会 30 日 6名 災害研究部会と合同企画「鎌倉歴史文化交流館」
○なつかしの名盤愛好会18 日　9 (2)名 ﾌﾟｯﾁｰﾆ聴き比べ等
○俳句部会「似歌会」12 日 10 名 「白酒」「梅」「雪融け」

４月　April

○定期総会　6日 出席者44名委任状2名欠席者4名 32 名以上総会成立。30 年度活動報告･会計報告､31年度運営方針承認
○例会　6 日　出席者 44 名　新会員候補:大木･西村･小柳･田嶋を承認
○行事　お花見 1日 33名(内ｹﾞｽﾄ5名)満開の大庭城址公園､晴のち小雨
○世話人・委員会　①世話人会 3 日 ②メディア委員会 休会 ③くぐひ制作部 10日8名98号第1回編集会議 ④HP制作部 休会 ⑤25周年委員会 例会で総括報告
○鵠沼松が岡公園愛護会 7日20名 清掃･総会(ｵﾃﾞﾝ)
○藤が谷公園愛護会 14日11(1)名 清掃･総会
○ヤングハーツ 2日幹事会･月初練習22(13)名 9日鵠生園(ホーム)20(11)名 19日藤沢病院15(10)名 30日鵠生園(デイ)19(10)名
○おもちゃの病院 14/28 日 14(1)/9 名　来院者 9/7名 新患6/9件 退院2/3件 当日完治3/2件
○子どもと遊ぶ会 13日鵠洋児童館8(1)名 子ども11名 変わり絵パズル
○鵠っ子囲碁･将棋ルーム 21日 8(3)名 他3名 子供:将棋15名 囲碁1名 保護者7名
○災害研究部会 9日6名 片瀬での町内会展示報告等
○極楽部会17日11名 Ｎｽﾍﾟ「認知症①」
○サロン会 休会
○健康部会 26日　川名谷戸
○探訪部会 16日(火)6名 円応寺･建長寺･獅子舞ｺｰｽ
○カラオケ部会 16日7名
○農園部会 7日6名 エシャレット等収穫　臨時活動16日2名 20日5名
○談話室 17日8名 諸話題
○スケッチ部会 18日3名 親水公園
○デジタル情報部会 22 日 16 名 Google フォト･AI等
○ヤングブラザーズ 練習 12日23（7先生3）名 27日 22（8先生3)名 27日19(6先生3)名
○近代史を語る会 11日16(5)名 昭和時代11回目
○企業研究部会 24日11(2)名 東京大空襲･戦災資料センター
○なつかしの名盤愛好会 15 日 11(1)名 バッハとジャズ
○俳句部会「似歌会」9日11名「潮干狩り」「目(ﾏﾅｺ)」

５月　May

○臨時総会　4日 出席者40名委任状3名欠席9名 35名以上総会成立　2019年度会計予算案承認
○例会　4日　出席者40名
○行事　①「ぐにゃ凧つくりと凧揚げ会」12日 9名 子ども30名 大人10名 PTA6名 職員5名②「ひょっこりこうなん島祭り」18日 8(1)名 子ども65名 先生2名 運営委員12名 ③「ゴルフコンペ」20日 9名 ④「藤が谷公園･春の花植え」9名 園児54名 保護者11名 先生7名
○世話人・委員会　①世話人会 1 日 ②メディア委員会 休会 ③くぐひ制作部 8日9名98号第2回編集会議 ④HP制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護5日18名 清掃
○藤が谷公園愛護会 12日 9名 清掃･花壇整備
○ヤングハーツ 1日幹事会･月練習 20(13)名 14日鵠生園（ﾎｰﾑ）20(13)名 17日藤沢病院17(12)名
○おもちゃの病院 12/26日 10（1）/13（2）名 来院10/20 名　新患 7/27 件　退院 2/5 件　当日完治5/11件
○子どもと遊ぶ会 上記「行事」参照
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 19日 8(2)名 他2名 子供将棋子供17名 囲碁1名 保護者7名
○災害研究部会 3日6名 FSV報告､SNS活用等
○極楽部会 16日9名 Ｎｽﾍﾟ「認知症②」
○サロン会 18日10（2）名 多くの料理･話題･酒
○健康部会 24日17(6)名 六会～天王森泉公園
○探訪部会 雨天順延
○カラオケ部会20日8(1)名 熱唱
○農園部会 5日 7名 植え付け 臨時 15日 4名
○談話室 16日7名 デジカメ等
○スケッチ部会 16日 3名 横浜･山手西洋館
○デジタル情報部会27日14 (1) 名 PDF活用､PC性能
○ヤングブラザーズ 10日24(8先生3)名 25日21(8先生3)名
○近代史を語る会 9日 18(7)名 昭和時代12回目
○企業研究部会22日9(1)名 横浜アソビル
○なつかしの名盤愛好会 20日 9(1)名 古い録音等
○俳句部会「似歌会」17日11名「新茶」「風」

私の趣味
“そば”いろいろ食べ歩き

玉田 英二

高校生のころからであった。「長徳へ行こうかー」「あー良いねー」近所の友達とである。

長徳とは、町田の原町田商店街の路地にある日本そば屋のこと。車の通らない狭い路地にいろいろな店が混在していて、長徳以外にも鳥を焼いていた鳥専門の「鳥海」、ラーメン中華の「クロンボ」、ウナギを店先でさばき焼いていた店もあり、ここの路地にはよく通った。その中でも行き付けとなったのが安くて旨い長徳で、“たぬきそば”が一番のお気に入りであった。ほうれん草、長ネギ、そして天かすが甘汁に溶け込んで蕎麦とからまり、この上なく旨いものと思えた。

大学の頃には、同級生Ｉ君の実家が品川・南大井で更科系の蕎麦屋をやっていたので、遊びに行った折りに、床下に瓶が並んでいてそば汁の基となる“かえし”を寝かせているのだと教えてもらった。更科の蕎麦は、江戸前蕎麦の代表格であり、白く細打ちされたものが特徴とされている。Ｉ君は、卒業後実家の蕎麦屋を引継ぎ、三代目として蕎麦を愛し実績を積み重ね、季節ものの変わり蕎麦や種物の天麩羅にも力を入れた。蕎麦は勿論手打ちで細目に仕上げ、付け汁は濃いめの甘辛くしっかりした味わいとなっている。

社会人になった時には、山形へ出張した折に“板そば”なるものを初めて体験した。そばが箱板の中に並べられている。黒くて太くて堅くて短い、コシがあると云えばそうだが噛んでいると顎が疲かれてしまう。先輩からは、あまり噛まずに飲み込むことだと教えられ、確かにそばは消化が良いので噛まなくても大丈夫。ここのそば屋は大石田にある“来迎寺そば”で、座敷に上がって待っているとはじめに“ぺそら漬”（ナスを色抜きし唐辛子漬け）が出てくるのだがこれがめっぽう旨いのだ。山形のそばと言えば、このように黒く太い田舎そばに代表されることが多い、また漬物類が必ずと云ってよいくらい付いてくるのが一般的です。他にも山形には「そば街道」なる有名店があり、村山には板そばの“あらきそば”ここはニシンの味噌煮がお勧めです。もう一軒、大石田の山中にある“七兵衛そば”ここは観光バスで来られるお客さんもいて、お替り自由の食べ放題のお店となっている。

あらきそば「板そば」

このように私にとって蕎麦は、興味を湧きたててくれるものなので雑誌や口コミで情報が得られれば、電車を乗り継いだりしながら食べに行くことも度々である。私は更科蕎麦でも田舎の太いそばでも駅にある立ち食いそばでも、何でも好きですが強いて好きなものは、普通の二八蕎麦（そば粉８割つなぎ２割）で細切りに仕上げたものが好きだ。十割蕎麦も味わいが深いが、蕎麦を食べたときの滑らかさや鴨汁やたぬきそばそして天ぷら蕎麦の時などは二八の方が旨いと感じる。

また、20 数年前から手打ち蕎麦の道具を買いそろえ自ら手打ち蕎麦を打ち始めた。初めは水回しが出来ていない、練りが甘い、延ばしが不均衡なので、太くて短くうどんのような蕎麦を作っていた。本を読んだりＩ君に相談を持ち掛けたりしながら経験を重ねることで、次第に要領を掴むことができるようになった。しかしやっと細打ちをマスター出来るようになった頃から、子ども達が独立しだして、ここ十年は夫婦 2 人の生活に戻ってしまった。昨今は旨い蕎麦屋を見つけ歩くことが楽しみとなっている。

編集後記　近年頻度が増している自然災害に対して個人それぞれがどのように対応していくかが大きな課題になってきている。巻頭には国や市がどのような動きをしているか、そのなかで我々は何をすべきかを長谷川さんに解説頂いた。次号以降「我が家の災害対応作戦」をシリーズで掲載予定、乞うご期待。代表を除く新世話人（池田修さん、嶋村さん、水野さん、岡林さん、田中力さん）にはその抱負をお聞きした。4 月、6 月に 6 名の新入会員があった。そのうち大木さん、小柳さん、西村望さんの自己紹介を掲載。ビフォア・アフターには田中章さんがクラブ入会前後の思いを執筆。部会活動紹介には地域活動に柳田さんが「災害研究部会」を、親睦・研鑽活動に佐々木さんが「ボウリング大会」、田中力さんが「ゴルフコンペ」をそれぞれ執筆。「私の趣味」では玉田さんが「日本そば」のうんちく話をご披露。　（塩爺）

会報　くぐひ　第 98 号
2019 年 7 月 1 日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 奥村 誠
編集人 塩川 昌男